

自宅出来る **ロコトレ**

ストレッチ編 ①

■太もも前【腸腰筋】のストレッチ 1(仰向け)



① ベッドに仰向けになり、伸ばしたい足側の膝から下をベッドから降ろします。
② 反対側の膝を抱えて胸の方に近づけていきます。そのまま膝をゆっくり床方向へ下ろしていきます。

注意

- 顎が上がらないようにします。
- 膝を抱えて胸に近づける際に反対側の膝がベッドから持ち上がらないように行います。
- 股関節に人工関節を入れている方は、膝を抱えるのではなく膝を曲げてベッドに置く程度で行いましょう。

■太もも前【腸腰筋】のストレッチ 2



足を前後に開き、伸ばしたい方の膝を着きます。上体を徐々に前側にスライドさせていきます。

注意

- 腰が前にそり過ぎないようにしましょう。
- 膝に人工関節を入れている方の足には行わないようにして下さい。



新任挨拶

副看護部長 認定看護管理者 友澤 永子

「対話を大切にしたいところの通う看護が提供できるよう努力します。」

4月からおおぞら病院に着任致しました副看護部長の友澤です。これまで長年、松山赤十字病院で勤務しておりました。地域共生社会においては、ますます地域の病院の果たす役割が大きく、変化してきます。病院の理念である「地域の皆さまに親しまれ、信頼され、満足される病院」を目指し、患者さんが、安全に安心して入院生活が送れるよう多職種と協働し、チーム医療の推進に努めて参ります。また、傾聴と対話を進める中で、患者さんの声、職員の声に耳を傾け、ともに成長していきたいと思っております。これまでの経験から学んだことを、新たな職場で活かしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

最近の出来事

入職式



おおぞら病院に新たに、セラピスト5名、看護師8名、臨床検査技師1名、放射線技師1名、医事課スタッフ1名のメンバーが加わりました。全員マスク着用、換気を十分行いながらの式でした。職員一同これからも、地域の皆さまに親しまれ、信頼され、満足できる病院を目指します。

総務/阿部

写真コンテスト 開催!



優秀賞:伊賀上 恵合(総務)

広報誌「そら」の表紙を飾る写真について、5Fそらにわの風景をテーマとし職員から作品を募集しました。多数の応募の中より、2名の方の作品が選ばれました。表紙に都築さん、本ページに伊賀上さんの写真を掲載しております。おおぞら病院の5Fそらにわでは、写真のように四季折々の花を見ることが出来ます。

広報企画委員会

新型コロナウイルス 予防接種



4月26日より、おおぞら病院にて医療従事者向けの新型コロナワクチンの接種が始まりました。近隣の医療従事者への接種も行いました。5月31日から、高齢者の方への接種も行います。

医療クラーク/野中



おおぞら病院 広報誌

理念

私たちは、地域の皆さまに親しまれ、信頼され、満足される病院を目指します



Vol.26 2021.05

ご自由にお持ち帰りください。

特集:

一般病床と地域包括ケア病床のQ&A

第1回 おおぞら病院写真コンテスト(テーマ「そらにわ」) 最優秀作品賞: 都築 周平(介護福祉士)

昨年度は新型コロナウイルス感染症の対応に翻弄された1年でした。院内ではスタッフ一丸となって感染予防・拡大防止の徹底を図りながら医療体制の維持に努めて参りました。入院患者さんに対しては、面会制限の中でも、ご家族との連絡を取りやすいようにWi-fi環境を整備致しました。世間では経済活動の低下により、多くの方々の生活に影を落としたのではないかと推察致します。現在進行しているワクチンの普及や治療薬の開発が進み、一日も早く日常を取り戻せることを願っています。この春、当院では16名の新しいスタッフを迎え、新年度をスタートすることができました。目に見えない感染症との戦いは、つらく、何事にも自粛してしまいがちですが、既存の業務・システムなどを見直し新しい仕組みやサービスを提供できる大きなチャンスと考えます。新しいスタッフとも力を合わせて、今までの常識にとらわれず、業務の見直しと改善を図りたいと思います。最近、New Normalという言葉をよく耳にします。新型コロナウイルス流行後は、ウェブ講習なども増え、今まで遠方まで行かなければ学べなかったことが、在宅や院内で、しかもみんなでも共有できるようになりました。今まで以上に学習をする環境は整ってきたように感じます。おおぞら病院は、引き続きの感染症対策と個々のスキルアップにより、今まで以上に安心して皆さまにご利用いただける地域密着型の病院を目指して参ります。

おおぞら病院 院長 吉田 直彦



【電車利用】
●伊予鉄市内電車・城北線 萱町六丁目駅 下車徒歩5分
●伊予鉄郊外線・高浜線 古町駅 下車徒歩10分
【バス利用】
●伊予鉄バス・運転免許センター線 北宮西町バス停下車 徒歩3分

愛媛県松山市六軒屋町4-20
TEL 089-989-6620

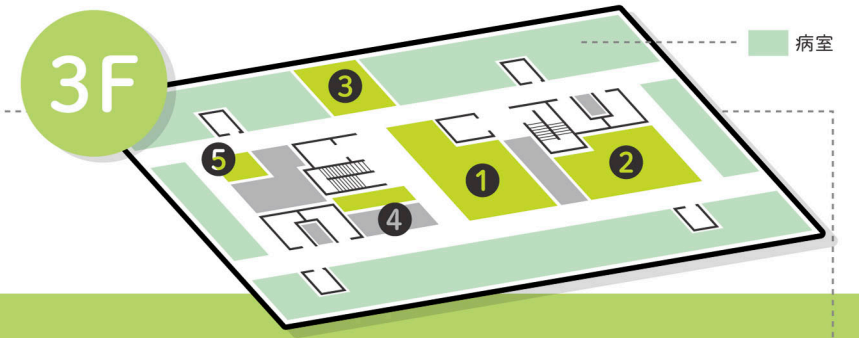
おおぞら病院



おおぞら病院ホームページ QRコード

一般病床と地域包括ケア病床の Q & A

3F病棟は、スタッフ一丸となって専門性を生かしたチーム医療を取り組むという方針を掲げ患者さんに信頼される看護・リハビリを目指して取り組んでいます。



- ① スタッフステーション
- ② 薬剤部
- ③ 食堂兼談話室
- ④ 特殊浴室(介護浴)
- ⑤ シャワー室

当院3F病棟は、急性期一般入院料7及び地域包括ケア入院医療管理料Iの届出をしております。また日本医療機能評価機構の認定を受けております。個室：19部屋 多床室：9部屋



入院の流れ

受付

入院が決まりましたら、1階事務所にて入院手続きを行って頂きます。入院に際し必要な書類をお渡ししますので、入院当日または入院後数日内に総合受付または担当看護師へご提出下さい。



入院

一般病床とは内科系の急激な症状発症を有した患者さんの急性増悪に対し効率的かつ密度の高い医療を提供し在宅復帰できるよう支援機能を備えた病床です。糖尿病などの慢性疾患で治療を要する方、検査目的等の方にも入院して頂きます。



退院

退院前カンファレンスが行われ、医師の許可が出たら退院となります。退院する月の入院費は当日計算致します。計算ができ次第お部屋までご連絡致しますので、1F総合受付にてお支払いをお願い致します。退院される方には「退院証明書」をお渡し致します。

Q. 3F病棟には、どのような患者さんが入院していますか？

看護部

A. 一般病床(18床)と地域包括ケア病床(30床)があり、脳血管疾患や整形外科術後の方、糖尿病教育入院やボトックス治療、大腸ポリープ切除や肺炎の方などの入院加療やリハビリを行っています。

私たちにおまかせください！

Q. 一般病床と地域包括ケア病床の違いは何ですか？

看護部

A. 一般病床では患者さんの疾患に合わせた治療を中心に、地域包括ケア病床では在宅復帰を目指してリハビリ中心のケアを行っています。

退院に向けて、医師・看護師・リハビリ・薬剤師・地域連携室など様々な職種スタッフが介入し、病床患者さんの日常生活動作に依りての自主訓練や起立訓練を行っています。



Q. 入院中に持参した薬がなくなった場合、どうするの？ なくなったら同じような薬を出してくれるの？

薬剤部

A. 薬剤部では入院時に持参薬鑑別を全例実施しています。持参薬がなくなった場合、同一効果の薬を処方できます。

持参薬鑑別とは：患者さんの現在服用中のお薬をお預かりして用法・用量のチェックを行い、当院で処方する際に主治医へ代用薬提案を行うことをいいます。

安心してお飲みください。

また同時に、腎機能・肝機能などの血液検査値に応じた適正用量や副作用発現の有無、飲み合わせやアレルギー歴などを確認し、関係スタッフと情報を共有しています。当院処方への変更時に、メーカーの変更または同一効果の他剤への切替を行うことがありますが入院時の確認事項に基づいてダブルチェックを行っています。



Q. 入院に係る費用のお支払方法や、費用の請求についてはどのようになっていますか？

医事課

A. お支払いについては現金だけでなく、クレジットカード払い、デビットカード払い、銀行振込でお支払い可能です。会計の際にお申し出ください。入院に係る費用の請求は翌月10日頃には、請求させていただきます。それまでの間の退院の時は、退院日に合わせてお伝えします。

Q. 入院に係る費用等、高額になった場合や、保険会社への証明関係書類等については相談できますか？

医事課

A. 1F総合受付にて受付しております。お気軽にご相談ください。

ご相談にのります！



Q. 退院の準備はどのようにしているの？

地域連携室

A. 誰に相談したらいいかわからないことを相談員が相談にのっています。退院時のイメージづくり、状況に応じた退院の選択肢の紹介やサービスの紹介を行います。

病院の中で相談に乗りきれない事柄については、適切な機関や施設と連絡を取り合い、紹介します。



あなたの「こうしたい」「こうしたい」を話してください。

Q. 退院後もリハビリは出来ますか？

リハビリ

A. 当院では必要に応じて外来リハビリと訪問リハビリを行っています。

※介護認定を受けている方の外来リハビリ利用は出来ません。

一緒にがんばりましょう！

【訪問リハビリ】

